

「第5回かながわ人づくりフォーラム」の実施結果概要

1. 開催の趣旨

昨年8月に策定した「かながわ教育ビジョン」の推進に向け、「かながわ人づくりフォーラム」を開催し、県民との論議を通じて、人づくりにかかわる各主体との協働・連携の拡大を進めるための、今後の方向性を明らかにし、実効性のある教育政策に資する。

2. 開催の状況

- (1) 開催日時： 平成20年11月8日（土） 13:30～17:15
- (2) 開催場所：（メイン会場） 県立神奈川総合高等学校・多目的ホール
（サテライト会場） 県立茅ヶ崎養護学校・会議室
- (3) テーマ： 「神奈川から発信する人づくりコラボ・ネット」
- (4) 内容： ◇ 「かながわ人づくり推進ネットワーク」の結成式
◇ 人づくりの実践紹介
◇ ショート・コラボ鼎談
◇ 教育論議「神奈川から発信する人づくり」
- (5) 参加者数： メイン会場 359名 サテライト会場 40名 合計 399名
一般県民 高校生 学生 教職員 保護者等

3. 「かながわ人づくり推進ネットワーク」の結成式

（高木展郎 かながわ人づくり推進ネットワーク幹事長）

第4回「かながわ人づくりフォーラム」の場で表明された、様々な立場の方々に人づくりに参加していただく組織を設置する構想に基づき発足する「かながわ人づくり推進ネットワーク」の結成式を今回のフォーラムの場で行った。

その中で、かながわ教育ビジョンで提唱された「心ふれあう しなやかな 人づくり」のさらなる推進と、様々な主体と協働・連携して県民総ぐるみの人づくり運動の進展を図るための、ネットワークの結成趣旨をはじめ、その活動目標や機能、さらには、今後の取組みの方向性についての説明が行われた。



4. 人づくりの実践紹介

教育ビジョンの重要な柱である「協働・連携による人づくり」の実践について、3つの取組みが発表された。

(1) 保護者と学校の協働・連携

「神奈川総合高等学校パートナーズの心ふれあう学びづくり」

神奈川総合高校のPTA組織である「パートナーズ」は、「そーだ、学校へ行こう。」を合言葉に、保護者と学校の新しい協働・連携のあり方を追求している。そこでは、「ボランティア・ファミリー」と呼ばれる保護者のグループが、固定したホームルームを持たない生徒のために居場所を提供しようとベンチを作ったり、花壇を作ったりという様々な取組みが行われており、保護者も楽しみながら学校運営に参加している。学校をベースに親と子が共に学び育つ実践についての発表があった。



(2) 地域・市町村と学校の協働・連携

「茅ヶ崎養護学校が地域との協働・連携で進める人づくり」

特別支援教育における、茅ヶ崎養護学校と茅ヶ崎市教育委員会、茅ヶ崎市こどもセンターの協働・連携による取組みが紹介された。

茅ヶ崎養護学校による開校以来の学校訪問相談や学校巡回相談等の教育相談活動を継続・拡張する形で、本年4月から、茅ヶ崎市教育委員会、茅ヶ崎市こどもセンターとの連携により、市の特別支援教育巡回相談事業が開始された。市内の小・中学校等の支援ニーズに対応して、地域のしくみづくり・人づくりに取り組む実践についての発表があった。



(3) 企業と地域社会の協働・連携

「株式会社バンテックの人づくり」

バンテックでは、職業観や社会性の育成の場と機会を提供するため、就職前の県内の大学生等に対して「神奈川産学チャレンジプログラム」(神奈川経済同友会主催)や「横浜インターンシップ制度」(横浜商工会議所・横浜市内9大学協力)を活用した人づくりの取組みを進めていることや、社員に対してはワーク・ライフ・バランスへの取組み等を通じて社会人、家庭人としてのバランスをとりやすい職場環境の提供を心がけている等の実践についての発表があった。



5. ショート・コラボ鼎談

「協働・連携の人づくりを考える！」

一家庭・学校・地域をつなぎ合う、人づくりコラボー

子育ての〈社会化〉に向けて

東京大学 教授

本田 由紀 氏

協働とコミュニケーションの場づくり

慶應義塾大学 教授

鹿毛 雅治 氏

地域で各主体の教育力をつなぐために

日本大学 教授

佐藤 晴雄 氏

3氏からそれぞれのテーマについての基調提案が行われた後、人づくりに向けた具体的な取組みについて討論された。今後のネットワークづくりには、①違う立場を互いに理解しあい話し合う「コオペレーションモデル」が大切であること、②「場」づくりを通して知・情・意の一体化・共有をし、違いを前提としたコミュニケーションが大切であること、③親や大人が子どもの手本となり、家庭力・地域力を高めることが大切であること等を軸に論議が交わされ、かながわ人づくり推進ネットワークへの期待が語られた。



6. 教育論議

「神奈川から発信する人づくり」

実践紹介やショート・コラボ鼎談を踏まえ、宮崎緑教育委員をコーディネーターとして、参加者とともにこれからの神奈川の教育のあるべき姿についての論議が行われた。高校生やサテライト会場参加者も参加して、生涯を通じた人づくりに向け議論がなされた。会場からは、



- ・ これまでは個人的な人脈によるネットワークだったが、これからはかながわ人づくり推進ネットワークの活用による広がりを目指す。
- ・ 支援を必要とする人たちが自分らしく生活できるインクルーシブな社会づくりのためには、知識や専門性を持つ多くの人たちとのネットワークが第一歩である。
- ・ 小・中や高・大といった校種間のつながりをさらに強めていくために、児童・生徒や学校に対する支援を進めてほしい。
- ・ 若い人たちの中で、社会のために役立ちたいと考えている人と、自分の時間を大切にしたいと考える人との二極化している。コミュニケーションを大切にしながら、世代を超えた信頼関係の構築が大切である。
- ・ いじめが問題になっている。現状の理解に努め、積極的な取り組みや対応を期待する。

といった意見が出された。

その上で、今後、生涯を通じた人づくりを推進するためには、ネットワークの充実が大切になること、他者との違いを認識した上でしっかりとコミュニケーションをとることが大切であること等が確認されるなど、「かながわ教育ビジョン」の一層の推進や、かながわ人づくり推進ネットワークの今後の活動に対する期待のうちに論議を終えた。

7. 「かながわ人づくり推進ネットワーク」からの提案

(高木展郎 かながわ人づくり推進ネットワーク幹事長)

教育論議での活発な意見交換を受け、かながわ人づくり推進ネットワーク幹事長より、これからの人づくりの展開に向け、以下の3つの提案がなされた。

- 提案1 「みんなで進めよう かながわ人づくりコラボ」をスローガンとする、コミュニケーションを大切にしたい人づくりの推進
- 提案2 「かながわ教育マンスリー」「かながわの教育を考える日」の設定に向けた運動の展開
- 提案3 ネットワーク機能の充実と普及活用の促進

8. フォーラムのまとめに向けて (平出彦仁 教育委員会委員長)

平出教育委員会委員長から、全体の論議を総括し、「かながわ教育ビジョン」の着実な推進に向け、次のような取り組みの表明がなされた。

- 教育ビジョンは生涯を通じた人づくりを掲げており、人づくりネットワークは、様々な段階のそれぞれに重点をおいた取り組みを相互につないでいく必要があること。
- 様々な主体が小さな集まりを多くこなすなどの取り組みを通じて、県民総ぐるみで人づくりを行うことの気運を盛り上げ、効果を高めていく工夫が必要であること。
- 自己肯定感を重んじ、「ほめる」ことを通じて存在感を自覚させることから人づくりに取り組んでいくことが大切であること。
- 県教育委員会として、人づくりの取り組みを全面的に支援し、協力していくこと。



9. その他

会場である県立神奈川総合高等学校からは、在校生が舞台装置の操作など、会場運営スタッフとして参加し、フォーラムの円滑な進行をサポートした。